

五常の鐘

第40号
令和2年4月25日

群馬県立沼田高等学校在京同窓会
〒188-0004 西東京市西原町4-5-37-6-104
金子高志気付
TEL & FAX 042(462)5176
在京同窓会ホームページ
<http://numatako-zaikyou.jp/>
E-mail: info@numatako-zaikyou.jp

在京同窓会新体制発足にあたり

群馬県立沼田高等学校在京同窓会 会長 金子高志



皆様、益々ご活躍のことお喜び申し上げます。昨年6月総会で、橋場前会長の後任として会長を拝命しました金子高志(19回卒)でございます。日頃より当会運営につき、多くのご支援・ご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

先輩、後輩、同期の方々に支えられ、新たな体制を作ることができました。作るにあたり、旧役員の方々に多くの支援を頂きましたこと、誠に感謝申し上げます。

この会の目的は、会員の親睦、母校へ

の支援、郷土への支援であります。微力ながら、新体制の仲間とともに、この目標を達成する努力を重ねたいと思っております。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

校歌が結ぶ不思議なご縁

1. わが校歌について

わが母校は、明治30年(1897年)4月に群馬県尋常中学校利根分校として創立された県立男子高で、2017年に120周年を迎えた。『沼高七十年史』(昭和43年(1968年)刊)には、現在も伝わる「進取勤勉、和親協同、質実剛健」の校訓を、生徒みずから選び、さらに校訓をあらわすような校歌を募集したと上毛新聞(大正9年10月31日号)が報じたとある。

その後の校歌について、昭和3年8月、当時の校長は文部省に「大正12年、生徒の応募歌を一國語教師が訂正せしものにして、正式の校歌ならず」と報告している。当時、生徒からの応募歌を、国漢を教えていた岩崎莞爾教諭が補筆し、それは、北毛の自然や歴史など歌い上げたも

のとなり、校歌として、生徒は受け入れ、歌い続けた。

50～60年前から、知り合いが歌う沼高校歌を聞き、静岡県掛川西高校を母校とする人が仰天した話、その逆の場合もあり。野球強豪高校の掛川西高校が甲子園で活躍し流れる校歌にびっくりし、掛川西高校に問い合わせをした件数もあった。

補筆に関わった岩崎莞爾教諭は、大正7年10月～同10年3月に掛川中学校で、また同11年9月～同13年10月に沼田中学校で、教鞭をとっており、校歌の類似に、大きく関わっていると推測される。

沼高と掛川西高両校の校歌は、メロディーだけでなく、歌詞も似ている。『基(もと)い固めて桔梗(けっこう)の』(沼

田)と『基定めて逆川』、『うまずたゆまず進みなむ』(沼田)と『めげず撓(たゆ)まず崩折(くつお)れず』(掛川西)などである。『沼高七十年史』には、さらに校歌について、「歌詞そのものの良否や、曲が他からの借譜であろうが、大正12年(=1923年)から今日まで、入学式や卒業式など数多くの行事に、また対抗試合の度に、生徒の哀歎をこめて歌われてきた校歌であり、みずから湧き出たもの、すでに本校の血肉となったものと見てさしつかえないと思う。まさに立派な校歌である。」としている。まさにその通りであろう。しかも100年近く歌い継がれている校歌である。

沼高校歌「基固めて桔梗の」の桔梗(けっこう)とは沼田藩主土岐家の家紋である。また、掛川西高の校章が掛川特産の葛の葉3枚の間に掛川藩主太田家の家紋である桔梗の蕾を配していることと好一對と云えよう。〔第2面下段につづく〕

令和2年度群馬県立沼田高等学校在京同窓会総会合同開催のご案内

総会を下記により開催いたします。

名称 群馬県立沼田高等学校在京同窓会総会
(群馬県立沼田女子高等学校在京同窓会と合同開催)

日時 令和2年6月14日(日)(受付開始10:00)

総会 11:00～11:20

懇親会 11:20～14:00

会場 明治記念館 富士の間(東館2階)東京都港区元赤坂2-2-23 TEL:03-3403-1171(代)

総会会費 11,000円

総会会費払込み期限 令和2年5月29日

振込先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 00180-6-52702

口座名 群馬県立沼田高等学校在京同窓会

同封の当会専用の「郵便振替払込用紙」(振替料は当会負担)をご利用下さい。

総会会費は同封の「郵便振替払込用紙」(振替料は当会負担)にてお支払い下さい。

振込みをもって出席の申し込みとさせていただきます。

紙面紹介

1面 会長挨拶・校歌が結ぶ縁

2面 母校等からのご挨拶

3面 在京同窓会総会・懇親会

4面 各期だより

5面 各期だより

6面 沼高フェンシング優勝

7面 学年幹事の近況報告

8面 在京同窓会役員等名簿